

ありがとうおかげさまで…

今年度の取り組みから

～水土里の会の方々におききました～

今年も子どもたちの元気な声が水源地交流水田に響き渡るのを聞き、美味しいお米を届けてもっと笑顔を増やそう!と、気合を入れさせてもらいました。交流看板に届く子どもたちからのメッセージも、私たちの励みになるだけでなく、地域の皆様にも元気を届けたいです。水源地域から届くきれいな水と、大和平野の元気な土の力を合わせて豊かな実りを育てることで、吉野川分水が地域を潤していることを子どもたちに伝えることは、持続可能な地域づくりにつながり、お米作りは「作る責任」と「使う責任」が伴う大切な仕事をしているのだと実感します。特に今年はいつまでも猛暑が続き、雨の少なかった8月と9月は特に気を付けました。この苦労が報われたと感じられたのが10月の稲刈り体験で子どもたちの笑顔が見られたこと、小学校に出向いて直接お米を手渡せた時で、水のつながりは人のつながりだとつくづく実感しました。

今年のもう一つ、地域のつながりを実感する出来事がありました。私たちの仲間に、川上村出身の方がおり、お住まいになっていた場所の案内をいただきました。私たちが吉野川分水のおかげで安定して営農ができること、水源地域の方々へ、改めて感謝の気持ちを抱きました。



大和平野の学校から 橿原市立 鴨公小学校

2年目の交流活動となった今年度、出来るだけ子どもたち主体の交流ができるよう取り組みました。5年生は、水源地交流田でかわかみ源流学園の友達に再会できることを本当に楽しみにしていました。稲刈り後には一緒に歩いて本校まで来てもらい、給食を食べてみんなで楽しい時間を過ごしました。4年生は川上村に出向いて交流し、音無川の清流に驚き、木々の美しさや動物にも触れ、川上村の自然を全身で感じていました。人と水や自然とのつながりを実感し、学んだことをまとめて3年生に報告することもできました。



事務局 後記

水のつながりプロジェクトが始まって13年が経ちますが、記録的猛暑に見舞われた今年も、水土里の会の方々ののおかげで無事におかげ米を収穫することができました。「毎年自分たちにできることを続けさせてもらっているだけですから」と

謙遜されつつ、地域の役割を果たす日々の営みに誇りを持っておられる水土里の会の方々の思いに応えるためにも、吉野川分水が届ける水の大切さを未来を担う子どもたちに伝え続けるプロジェクトになるよう、尽力いたします。



水のつながりは 人のつながり

令和6年度(2024年度) 水のつながりプロジェクト実施報告書

主催: 大和平野土地改良区・奈良県川上村 協力: 奈良県農村振興課 水土里の会(橿原市田中町)

地域をつなぐプロジェクト



紀伊半島大水害が起きた平成23年、吉野川の豊かな水が吉野川分水をとおりて安定的に届くおかげで営農ができる感謝の気持ちを伝えるため、大和平野土地改良区の組合員のみなさんから、吉野川分水の水源地域へ「おかげ米」が贈呈され、川上村にも9tのお米が届きました。『川上宣言』を掲げ、水源地の村づくりを推進する川上村にとって、丹精込めてつくられたお米を贈っていただいたことに感謝し、水を育む水源地域と、水の恵みで実りを育む地域の営みのつながりを実感できる機会になりました。

翌年、つながった双方のおもいを継承できるよう、川上村と大和平野土地改良区が共同で「水のつながりプロジェクト」を立ち上げ、それぞれの地域の小学校どうしの交流を軸に、お互いの地域のつながりを知る活動は、地域の方々の支えによって今年13年目を迎えることができました。

田んぼにとどく水のふるさと

吉野川の最初の一滴は、川上村が保全する740㍎の天然林「吉野川源流一水源地の森」や、500年の歴史を持つ吉野杉の人工林など、川上村の歴史と暮らしによって守り、育まれてきた森林から毎日生み出されています。



源流の学校から 川上村立 かわかみ源流学園

本年度の交流活動をとおりて、地域とのつながりと郷土の魅力を発見することができました。

5年生の活動では、田植え体験をとおりて、きれいな水を流し続ける川上村の役割に気づき、橿原市の子供たちと学校給食と一緒に食べたことで橿原市の役割に気づきました。おかげ米の稲わらを使った注連縄づくりでは、刈り取り後の稲を余すことなく使うことも知り、これらの気づきによって、水と食のつながりを認識し、おかげ米を使った郷土料理学習を展開することができました。

4年生の活動では、自分たちの地域から流れていく水が色々な所で使われていること、川上村が果たす役割に届けられる「ありがとう」の言葉を意識しました。ゆくゆくは皆が使う水だから、下流の仲間と一緒に水を守る行動へつなげることを目標に、水源地の村の良さを知ってもらうため、今年4月に開校したばかりのかわかみ源流学園の校舎の案内と、学校生活の様子を伝えることで、子どもたち同士の共感へつなげました。



吉野川分水(よしのがわぶんすい)

大和平野における水不足の解消を目的に実施されたもので、大迫ダム・津風呂ダム・下瀬頭首工・平野内水路等の施設から構成されます。これらの施設により吉野川から大和平野に農業用水として導水されており、大和平野の農業水利の安定化に役立っています。また水道用水としても利用されており、これらの水が「吉野川分水」と呼ばれています。大和平野土地改良区では、導水幹線水路、東西幹線水路等の水路及び分水工の管理を行っています。



令和6年度
(2024年度)

水土里ネット
大和平野

水のつながり プロジェクト

奈良県
川上村

流域住民

地元農家
水土里の会

今年度も、大和平野と水源地域の子どもたちがそれぞれの地域を訪ね、体験や見学を行い、交流しました。お互いに水でのつながりを実感し、感謝の気持ちをもって地域について学ぶ機会となりました。

参加いただいた 学校



川上村立
かわかみ源流学園

4年生 7人

源流体験

5年生 4人

田植え・
稲刈り体験



橿原市立
鴨公小学校

4年生 23人

5年生 28人



体験指導：みどり
水土里の会（橿原市田中町）の農家のみなさま

4月

- ・種まき
- ・畦塗り
- ・田起こし

5月

- ・入水
- ・代掻き
- ・田植え

6月

- ・草刈り
- ・害虫対策
- ・水管理

吉野川分水の管理

吉野川分水事業は、大和平野の農業や産業が発展することを目的に進められたものです。大迫ダム・津風呂ダム・下河頭首工・水路などの施設から水が運ばれ、吉野川の水は大和平野に届けられています。この事業によって、農業用水が供給されることで日照りがあっても、大和平野の農業が安定的に行えます。また県内の水道水としても利用されています。

吉野川分水は水のつながりを通じて、人のつながりへと発展し、大和平野の暮らしに欠かすことのできない大切な事業となっています。



田植え体験 6/14

鴨公小学校と川上小学校の児童が水土里の会の方々の指導を受けて、水源地交流水田に稲の苗を植えました。目の前を泳ぐカエルに気を取られることもありましたが、丁寧に植え付けすることができました。

田植えの後、川上村と橿原市の水を飲み比べ、それぞれの地域の味の感想を伝え合いました。



7月

- ・施肥
- ・中干

8月

- ・害虫対策
- ・水管理

9月

- ・台風対策
- ・落水

源流トレッキング 8/2

吉野川分水の受益地より一般公募で27名の方にご参加いただきました。大迫ダムの堤体やキャットウォークを歩き、操作室でダムの役割を学びました。

水源地の森では、源流ならではの動植物との出会いに心を癒され、木漏れ日を揺らす風と澄み渡る水に一時の涼を感じ、ここから始まる水の旅に関心を抱いていただきました。



源流体験 9/20

川上村の暮らしと水の関係を知ってもらうために、みんなでまち歩きをしました。製材所に積まれた丸太、挽かれたばかりの板の香に興味津々でした。

蜻蛉の滝の見学、音無川で水に触れる体験、土倉翁の野外展示見学を通し、木を育てることは水を育てることにつながり、人工林も水を育む大切な森であることを知りました。



10月

- ・稲刈り
- ・乾燥
- ・脱穀

11月

- ・精米
- ・出荷

稲刈り体験 10/17

いつまでも続く猛暑で、屋外の活動を控えるように注意喚起された今年の夏も、一つも手を抜かずに稲のお世話をしてくださった水土里の会の方々のおかげで、豊かな実りの収穫ができました。稲刈り後は、みんなで鴨公小学校まで歩き、吉野川分水が流れる飛鳥川や藤原京を見学しました。

鴨公小学校では、一緒に給食を食べ、楽しいひと時を過ごしました。



おかげ米贈呈 11/13

今年も水土里の会の方々がおかげ米を直接学校へ届けてくださいました。子どもたちは、稲を育てるためにどんな苦労があるのかを水土里の会の方々に質問し、手間がかかる分、収穫の喜びがあることを伝えてもらえたことで、自分たちが植えた苗が水土里の会の方々のおかげで豊かな実りに育ったことの重みをおかげ米から体感しました。

